

令和2年3月31日

令和元年度 社会福祉法人まるこ福社会

事業報告

令和元年 新春お楽しみ会

とんぼハウス



大 樹



きらり



まるこ福社会 令和2年 第1回評議員会

2020年(令和2年)6月20日(土) 10:00 緒環

1.総括

2019年5月1日、元号が平成から令和に変わり、日本は新たなる出発をいたしました。世界に眼を転ずれば、米中の経済対立を始めとして、自然災害による環境破壊、貧困家庭と児童の増加問題等解決すべき課題が山積しており、年末からは、中国武漢市から新型コロナウイルスの感染が発生し、世界的な猛威を振るっております。

国内の福祉分野においては、超高齢社会の到来による老人介護や、特別支援を要する児童生徒の増加と貧困層の拡大、更には共生社会の負の遺産でもある地域社会の希薄化等、様々な課題解決が急務となっている昨今であります。

私たちまるこ福祉会は令和元年度、創立15周年の佳節を迎える中、地域福祉の灯台として、地域住民や各種団体と連携・協力のもと、地域福祉を視点に特色ある事業を展開し、また、各施設での様々な事業を推進してきました。以下では、前半に、「地域福祉を中心とした事業報告」を、また後半では、「施設別事業報告」をいたします。

- (1) まず、まるこ福祉会として、チームあったかい輪の温かな支援を受け、年間来客数は28,274人となり、きらりホール、きらり市民ギャラリー、サロンあったかい輪の利用客は年々増加する方向となりました。
- (2) 中でも、まるこ福祉会と子育て応援団ぱれっとの協働で、平成30年8月より毎月第一土曜日に「子どもレストラン・きらっと」の開催が始まりました。毎回、子どもたちは、喜びをもって参加する姿が随所でみられ、ボランティアも高校生や大学生を含め全体で1,151名を優に超えるほどの大規模な形で開催されるまでになりました。お陰様で、協力団体より、寄付金や食材等の支援をいただき運営しています。(詳細は別項)
- (3) 全国版「月刊福祉」(2019年2月号)や新聞・テレビ・ラジオ等マスコミ各種の取材が多数訪れ、県内外にまるこ福祉会が紹介されました。特に、「月刊福祉」の影響が大きく、県内外より視察の方が多数来所されました。(詳細は別項)
- (4) 各種団体や人々との交流会も活発に行われました。地元住民で構成されるボランティア団体「チームあったかい輪」、麻布大学附属高等学校演劇部の生徒さんとの交流をはじめ、南米(ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン)農業女性団体、フランスからの視察等海外からのお客様も来所されました。(詳細は別項)

上記を基に、地域貢献活動の事業報告として後段で述べます。

2、まるこ福祉会が目指す理念

まるこ福祉会の理念、それは、まるこ福祉会にかかわる全ての人が幸せになることです。

まるこ福祉会創立から掲げる理念として一人ひとりの自立した生活を支援し、「障害者の生涯を支えたい」の実践化を図るため、日々の生活のなかで絶えず確認し、かつまるこ福祉会が発足より描いてきた大切な原点としても今後も努力をし、実現すべき目標として努めて参ります。

○まるこ福祉会の理念を示させていただきます。

(1) 「人の心に幸せの種をまく」

明治の文豪・幸田露伴の「努力論」の中に、「人間の生き方」を3つに分類したところがある。それは「惜福」「分福」「植福」である。

「惜福」とは、自分が持っている財産や宝を無駄遣いしないこと。

「分福」とは、自分だけ楽しまず、人に福を分けてあげること。

「植福」とは、幸せを、人の心の畑の中に、種を蒔いてあげること。そして、幸せの花を咲かせてあげる人のこと。

私たちまるこ福祉会は、この「植福」を、障害の有無にかかわらず、どんな人々も味わえるよう、施設やグループホームにおける様々な作業や生活をとおし、その人の人生において、心の畑に幸せの種をまき、幸せの花を咲かせることを、永遠に目指していきます。

○理念の達成を目指し、職員朝礼で確認し合う具体的実践項目として、次の事を「職員指針」と定め掲げて、前進ある日々を送っています。

(1) オアシス宣言

「オ」… 思いやりの心で

「ア」… 明るさを大切に

「シ」… 幸せなときを

「ス」… 過ごせる職場 ホーム まち 人生を目指す

(2) 「あいさつの心」

あ…あかるく笑顔で

い…いつでも

さ…さきに

つ…つづけて

(3) 「明るい職場は心も成長」

み…認め合う心 (尊重)

た…高め合う心 (向上と練磨)

よ…寄せ合う心 (協調)

(4) ATM

A…明るく

T…楽しく

M…前向きに

3.まとめと今後の方向

・以上、理念と職員指針を私たちが仕事をする上で、大切な勝利をするための羅針盤と捉え、この1年前進してきました。また、全職員が、「マイ日本一」を掲げ、より具体的な実践目標をもって、業務に生活に取り組んできました。

その結果、地域福祉の推進と、利用者の増加と来客数の上昇、また就労面でも質量共に成果をあげることができました。

・令和2年となった2020年度は、まるこ福祉会創立16周年の佳節を迎えます。そこで私たちは、2020年の初頭に全職員が定めた、「マイ日本一」の実現に向かって、まるこ福祉会が定める①人材の育成 ②職場改革の2本柱を目標に、職員の資質向上とチームワークを根本に、「すべては、みんなのしあわせのために」を胸奥に、誠実と情熱、勇気を堅持して日々精進して参ります。

令和元年度 地域福祉を中心とした事業報告

～地域福祉の灯台として、「社会貢献活動」に努める事業から～

- 1 地域住民と連携・協力により、『地域福祉の灯台』としての自覚と使命に燃え、地域住民の文化活動及び人権尊重の精神の高揚を推進し「生涯学習の学び舎」も構築。

平成28年10月15日にオープンした福祉空間施設は、①パン工房のぐらんまるしえ、②障害福祉サービス事業所きらりと地域密着型特別養護老人ホーム大樹の利用者及び職員の食事を担当する厨房（平成29年2月1日給食開始）、③サロンあったかい輪、④きらりホール、⑤きらり市民ギャラリー、⑥健康長寿推進センター「げんき」（平成30年5月開始）、⑦子育ての相談や講座運営の「ぱれっとハウス」の7施設は、子どもからお年寄りまで、だれもが気軽に足を運び、潤いの時間を心豊かに過ごせることが出来る「オアシス」の場として、『地域福祉の灯台』の役目を果たすことができました。（詳細は別項）

- (1) きらりホールを活用し、地域住民が講師となって地域住民のために多種多彩にわたる文化や趣味の講座を開設して、生きがいとなる活動を推進した。
- (2) 布あそび、折り紙講座、園芸、脳活性化の体操やレクリエーション、絵手紙、ヨガ、ダンスを始めとした各種講座の開催は、幅広い方々が利用できた。
 - ・講座の中には、地域住民だけでなく、障害福祉サービス事業所に通所している障害者や老人ホームの入居者が一緒になって楽しむものもあり、その意味で、きらりホールが、地域福祉の灯台としての使命を果たしている。
- (3) また、講師役となる地域住民は、60代から80代の方が中心であり、特技を生かす場となるだけでなく、生きがいづくりになっている。また、クラシックコンサート、チャリティコンサート等、共に活動をし鑑賞することを通して、学ぶ楽しさと達成感、成就感を享受でき、その姿からは、共生社会における、「生涯学習の学び舎」にもなっている。
- (4) さらに、地域住民や障害者、高齢者の全ての人に、人権尊重の精神を体験と音楽を通して高め合うことを目的に、「ヨンボ夫妻の人権コンサート」を開催。国籍や家庭環境、生育の違い等、あらゆる差異を乗り越えて、いじめや差別のない社会や職場を構築するために、国際結婚の話と、命の大切さをテーマにした歌と演奏は、多くの人に共鳴を与えた。まるこ福祉会の職員指針の中にある、「認め合う心」、「高め合う心」、「寄せ合う心」を確認し、肌で感じる事ができたコンサートであった。
- (5) サロンあったかい輪の開設は、地域住民の会話と交流の推進など生活空間として貢献している。特に、地域住民によるボランティア団体「チームあったかい輪」は、創設4周年を迎え30名の仲間が集い、中でも80歳代のご高齢の方が、ボランティアとして参加される姿からは、「生涯、青春」そのものであり、来客の人々に、勇気と希望を与えてくれている。願意として、「互いに会ったら、会話をしよう」であった今、老若男女問わず、たった一杯のコーヒーから温かな幸せの時間を楽しめるサロンにまで向上してきたと実感している。

- 2 「子どもレストラン・きらっと」の開催（別項）

子ども食堂の原点は、今から20年前の平成12年に東京の練馬区で始まった「貧困家庭の子どもに食事を提供する」ことが発端であるが、現在は、様々な課題解決の活動へと変容している。

全国で3718か所（NPO法人全国子ども食堂支援センター、2019年調査）あり、全国の6つの小学校に対して1つある計算になる。充足率17%である。

- (1) 私たち、まるこ福祉会が目指す子どもレストランの第1の特長は、核家族化や超高齢社

会の到来により、子どもからお年寄りまで、互いに支え、認め合い、高め合う人権尊重を基盤にした、思いやりの心を耕す子どもの居場所づくりである。さらに、異世代間交流の場としての子どもレストランを企画運営するものである。

- (2) 2点目の特長としては、その運営スタッフの中心として、地元の丸子修学館高校や長野大学の学生たちが、毎回意欲的にボランティア活動として参加している点である。子どもレストランで、子どもと共に遊びや学習、集団活動を通して、子どもとの関わり方やコミュニケーション能力を学び、将来は、子どものための職業に就きたいと考え、信州大学教育学部を受験し見事合格した高校生も輩出できたのである。
- (3) このように、子どもから地域住民の高齢者まで、食事作りや遊び、伝統文化の継承活動を通して、心の絆を結び、生きがいと喜びのオアシスを創出できていることが3つ目の特長である。課題もあるが、今後は100回の開催を目指し、子どもたちのためのレストランを発展させていきたい。

3 「WITH新型コロナウイルス」対策のための地域貢献

～子ども支援レストランの開催で、児童生徒に食事の無料提供と学習支援～

新型コロナウイルスの感染は、世界各地に猛威を振るい、県内の学校も急に令和2年3月2日から一斉休校となり、自粛体制のなか、外出できない児童生徒は、家で生活をする事態となってしまった。

特に、保護者の仕事により、昼食を子どもだけで済ませることになった家庭においては、その食事の準備が困難になり混迷の度を深めた家庭環境に一光を灯そうと考え、

午前8時30分から午後4時まで、まるこ福祉会として児童生徒を預かり、食事の無料提供と学習支援と遊びの場を創出することができた。

- (1) 『子どもたちに、おなかいっぱい食事を提供したい』（柳澤理事長の発意） 令和2年3月3日から同年3月19日までの10日間、参加した135名の児童生徒は、異年齢であり、学校も学年も違う中、1日にして友だちになり、極めて有意義な毎日過ごすことができた。
- (2) 『急遽、手を差し伸べてくれたボランティアの皆さんに支えられた』 ボランティアで参加してくれた地元の高校生や長野大学の学生、さらには地域住民の有志が積極的に行動し、正に異年齢集団による幅広い人間関係の中で、多彩な学習や生活の活動ができたのである。
- (3) 『子どもたちにとってストレスのない充実した日々となった』（感想文から）
保護者の感想として、「利用する度に、今日は、どんなことをしたのか、家に帰ってくると、仕事から帰った私たち親に向かって、一気にとても楽しそうに、その日の出来事や生活の状況を話してくれたのでした。」また、ある保護者は、「親の私たちも、本当に助かりました。感謝の気持ちでいっぱいです。」とか、「とてもバランスのよいスケジュールで大変良かったです。学校の宿題も大学生に教えていただいたり、美味しい昼食もお腹いっぱいいただき、大学生のお兄さんやお姉さんと一緒に遊んだり生活ができたことが、とても意味のあることでした。」また、「子どもたちにとって、ストレスのない充実した日々でありました」等、充実した子ども支援レストランであったことがうかがえる。
- (4) 『3. 11を永遠に忘れてはならないことを、今こそ学ぶ時だと思った』 また、3月11日は、あの東日本大震災の教訓を避難訓練や非常食を通して体験学習をすることも出来た。本当なら、同じ学校で同じ先生のもと避難をするところであったが、その日ばかりは、全く違う場所で、違う友達と、違う大人の指導者の下で、突然の避難訓練ができ、より実践的な訓練となった。
- (5) 『大変なときこそ、大切なことをみんなで学べる絶好の機会と捉えたい』 この日は、元

学校教師もボランティアで参加していただき、道徳の授業も行い、どんな事態になってもいじめや差別のない、人権尊重の精神まで学習を深めることができました。

(6) 『できない』を嘆くより、『できる』を楽しみたい

子どもたちは、普通の学校では体験できないことばかりで、極めて新鮮な教材により深まりのある人権教育ができた実感したと思われる。ある小学5年生の女子児童は、感想をこう語った。「学校に行けなくなり、友だちにも会えなくなった。辛かった、寂しかった。でも、ここのレストランに初めて来て思ったことがある。それは、寂しいとか悲しいとか言っても何も解決できないこと。だったら、初めて出会った人とお友達になり、楽しんで勉強したり、遊んだほうが、私にとってプラスになると思った」と。

(7) 『人のために行動すれば、自分も周囲も明るくなる』さらには、地元のオカリナの演奏家がボランティアで、体験的な音楽学習を展開してくださり、子どもたちは、思わぬ楽器演奏により興味深い音楽教育を体験することができたのである。

(8) このように、12日間は、あっという間に過ぎ、135名の子どもたちは各学校に戻っていったが、現実には、まだ休校中である。ある子どもは、「ぼくは、初めて来たときに、しっかりやっていけるか心配だったけど、先生（これは、まるこ福祉会の職員やボランティアの学生や地域住民のことを指します）たちが、しっかり僕の分からないところを教えてくださいまして本当に助かりました。バス旅行にも連れて行ってくださり、楽しい思い出となりました」と、子どもたちも満足感が横溢した、有意義な活動であったことが伺える。

(9) ここで得た貴重な体験と活動から、私たち職員は多くのことを学んだのである。「ウンツ」（南アフリカの言葉）とは、みんながあっての私という意味で、支え合うことの大切さを示す言葉である。それは、困った時は、互いに助け合う心が大切であるという基本精神から、「人が一番うれしいと感じるときは、人を助けた時、そして、人から助けられた時」であることを実感することができたのである。「新型コロナで大変でも、人のためになる社会貢献活動を進めていきたいと決意します。」とは、大学生の感想である。

「真心をいただいたこと」（職員の朝礼から抜粋）

新型コロナウイルス感染予防のため、令和2年3月2日より学校が休校となり、私たちまるこ福祉会は、職員の提案から、保護者の仕事の関係で留守家庭となった子どもたちのために、令和2年3月3日から3月19日までの14日間、子どもの居場所として、「子ども支援レストラン」を開き、135名の子どもたちに食事を無料提供し、学習や生活支援をしました。

その模様は、NHK、信越放送、長野朝日放送の各テレビ局で放映されたり、新聞等で報道されました。それを見ていた方からの真心が、まるこ福祉会に届きました。

◎ 令和2年4月12日、まるこ福祉会に、3万円の寄付がございました。

寄付をされた方は、東御市在住の50代の男性でした。早速に、同年4月15日（水）午後4時に、お礼の電話をしました。その男性は、

「この大変な世の中であって、子どもたちのために、一生懸命活動をされている人が、この世の中にいるかと思うと、思わず頭が下がりました。暗いニュースばかりが報道される中、久々に明るいニュースをテレビで2回も見ました。わずかですが、お役立てください」と言われたのでした。本当にありがたいことでもあります。なかなかできないことだと思えます。

◎ 同年4月16日（木）午前11時10分、丸子修学館高校の島崎先生から電話がありました。島崎先生は、こう言われました。

「先日もテレビや新聞で、休校中の子どもたちのために、子ども支援レストランを開いて、無償で食事を提供されたり、学習や遊びの支援をしていることを見ました。感動しました。それに、今回の新型コロナウイルスの関係上、外出の自粛でレストランもきっと、お客様が少ないと思います。

うちの高校生も休みで、お願いをしていたパンの販売もできず、きっとお困りだと思います。少しでもと思い、私たち職員で、パンを買わせていただきます。毎日、パン食という訳にはいきませんが、週3回、月・水・金曜日に、丸子修学館高校に販売にきてください。50個から70個でしたら職員が買わせていただきますので。どうぞ、販売をお願いします。」と。本当に、ありがたいお話です。人が困っている時こそ、温かな手を差し伸べてくださることほど、うれしいことはありません。感謝いっぱいです。

この真心を忘れず、新型コロナウイルスに負けないで、みんなで精一杯生きていきたいと思えます。

4 地域の環境整美活動 「上田の里山にどんぐり植樹」

(平成24年5月11日付、信濃毎日新聞掲載の題字)

- (1) その歴史は、9年前にさかのぼる。平成23年5月13日、第1回のどんぐりの植樹を500本行う。当時、75名のボランティアが参加。「荒地から自然公園を作ろう」との願いの第一歩が始まったのである。これにより、どんぐり山として自然環境の美化と潤いの場所づくりが創出でき、以後、毎年3回、地域住民とボランティアで整美活動を、今年で10年目を迎える。
- (2) 翌年の5月には、ボランティアは160名を超え、どんぐりの苗500本を植樹した。その折り、詩人の谷川俊太郎氏の「木を植えよう」を大合唱し、その模様は、SBC信越放送で放映され、録画したCDをイオン会長にお届けしたところ、会長は感激されその結果、現在のきらりの敷地2,500坪、建物750坪を購入できたことは、忘れることのできない歴史的一幕である。
- (3) 活動の普遍化と国際化また、中国の学生や社会人の社会貢献活動として、施設の周辺地域の環境美化を推進するために、ごみや雑草取りを実施した。
9年にも及ぶ、この活動は極めて地道ではあるが、地球環境問題解決の一助の取り組みといえる。地球の温暖化が叫ばれて久しいが、国連が提唱する、環境問題で「国連の持続可能な開発と教育のための10年」につながる活動である。

5 地域住民の自治活動に協力し、共生社会に貢献

- (1) 地域住民の避難所として、施設(トイレ、水の確保も含め)と駐車場を提供し、地域住民の安心・安全の確保により、地域のセーフティーネットを構築。
- (2) 町会の敬老会を始め、各種の会合開催の場所としてきらりホールを提供して、避難訓練や地域行事開催の実施を支援している。

6 地域の幼保の園児との文化・教育交流の推進

長瀬・依田保育園やちぐさ幼稚園を始めとして、地域の園児と障害者・老人ホーム入居者との観劇や音楽会鑑賞の交流を長年にわたり推進。令和元年11月には、劇団ばくの演劇公演があり、幼・保の園児たちは、10歳代から80歳代以上も年齢が離れていても、みんなと一緒に楽しむことができた。また、きらりホールまでの園児の送迎を担当したり、園児との焼き芋大会の開催にも貢献できた。

7 地域ボランティア団体や演奏家・活動者との交流

きらりホールや大樹ホールに地域の音楽愛好家（シャンソン、ハーモニカ、オカリナを始めとして）を迎え、地域住民と障害者や老人ホーム入居者との交流を図り文化の高揚に努めた。令和元年7月開催のクラシックコンサートや同年2年9月開催のチェロコンサートでは、利用者が楽器の体験ができるコーナーを設け、楽器の楽しさと不思議さを体験できる機会をいただき、一流演奏家を身近に感じる事ができたことは、豊かな感性を育む上で、貴重な鑑賞の機会となったことに通じる。

また、地域のシャンソン教室の受講の地域住民を迎え、障害者や高齢者との交流会を適宜実施して、文化と芸術に親しむことを大切にしている。

8 地元の養護学校や中学校生徒の受け入れにより、地域交流と金銭教育を支援

- (1) 地元の上田養護学校の生徒の教育実習を毎年受け入れ、勤労の大切さを学ぶ機会を提供。高等部1年～3年の全生徒が見学や実習を経験した。また、同生徒が、ぐらんまるしえでの買い物を実体験する機会を提供し、金銭教育を支援することができた。
- (2) 丸子北中学校生徒 見学 令和2年2月19日（火） 生徒の感想文

『どんな人がいても、みんな平等なんだ』

「今日は、見学をさせていただき、ありがとうございました。私は、働いている人を見て、働くという大切さを知りました。私は、理事長が言っていた、『どんな人がいても、みんな平等なんだ』ということに、私は、心を動かされました。さらに言われました。『どんな人がいても、おかしくないんだよ』と。自分に自信がついたように思いました。

私は、小学校のころから、よくいじめられてしまい、だれもわかってくれなくて、落ち込んでしまったことも、何度もありました。でも理事長様を信じて、毎日、しっかり前向きにがんばりたいです。本日は、本当にありがとうございました。きらり様も、元気で明るくがんばってください。」

（丸子北中学校 O・Kさん）

たった3分の理事長の言葉であっても、立ち去った理事長であっても、その中学生は、決してその4文字を離さなかった。それどころか瞬時にして心に刻んだのだ。

多くを語るなくても、長時間の立派な講演でなくても、体験に裏付けられた確かな一つの真実の言葉は、中学生の心のひだに自然に入っていった。

時間にして3分。その180秒の中で、探し当てた言葉、珠玉の言葉が「平等」の4文字であった。彼女は、これからの人生に生かそうと、自信をもった瞬間である。

私たちの理念を構築する基底に、「植福」がある。人々の心に幸福の種をまくことの意味である。

今回の施設見学で得たものは何か。それは、彼女の肥沃な大地となる豊かな心に、きっと、この「平等」の4文字が希望の種となり、将来は、必ずや大きな花を咲かせる時を作れたことだと思う。それを、中学生から教えてもらった。

私たちの地域福祉は、この、幸せの種をまき続けることが使命の一つである。まいた種が各地で、そして日本で、世界で、幸せの花を咲かせていく。この遠大なる幸福事業を毎年行う実践家を目指していきたい。

9 国際交流の推進を図り、障害者の外国文化を学ぶ心の醸成と、伝統文化を学ぶ機会を提供

- (1) 南米（ペルー、ブラジル、パラグアイを始め）居住の日系二世の農業関係者を受け入れ、食事を共にして障害者との交流の機会を提供。2018年から厚労省の事業の一環として、毎年実施をしている取り組みで、利用者が歌う「ふるさと」の声を聞いて大勢の日系二世の方が、涙したことがよくあった。
- (2) 日本に研修に来たフランス人との交流に協力をし、障害者や地域住民と共にボランティア団体の演奏活動を鑑賞できた。
- (3) 中国北京市在住の大学生の社会貢献活動を受け入れ、どんぐり山での環境整備活動の機会を提供した。また、上記の学生や外国人と障害者が一緒になって、日本の伝統文化である餅つき大会を実施した。

10 きらり市民ギャラリーや花風里で、芸術・文化活動の発表機会に貢献（別項）

地域住民や著名人等（日中友好写真協会会長、県外写真家等）による写真展、絵画展、油彩画展、押し花展、タペストリー展、銅版画展等を開催し、地域住民に鑑賞の機会をつくり、潤いの場を提供した。また、小中高・養護学校の児童生徒の美術教育の一環として、その機会を提供した。

11 地域住民のエコ活動への支援と貢献

地域住民がエコ活動として取り組んでいる古布や衣類、アルミカン等の収集を支援するために、まるこ福祉会に提供されたものを有効活用する取り組みをして久しい。

とんぼハウスやきらりでは、その空き缶回収を推進し、地域住民のエコ活動を支援している。また、再使用できる衣類や補助着の受け入れをして、障害者や老人ホーム入居者への提供に協力している。

12 健康長寿推進センターの施設で、老人の介護予防

5月に上田市の認可を得て、福祉空間内施設で開設した。そこでは、老人の介護予防を推進するため、そのプログラムを企画し運営し、令和2年5月をもって終了。

13 東日本大震災の福島県南相馬市の「物産販売支援」と視察研修

復旧復興支援が平成23年3月23日から始まり現在は、海苔を始めとした南相馬市の物産を、まるこ福祉会で購入し、「サロンあったかい輪」で販売をして売上金を全額送金。また、職員は、令和元年9月、11月と2回にわたり南相馬市で視察研修をし、そこで食事をしたり物産を購入した。こうして、10年目の復興支援の歴史を持つ。

14 小・中学生の職業体験学習の支援

小学生の夏休みを利用した職業体験学習の場として受け入れ、勤労の意味を学ばせることに貢献。また、中学生の進路指導の一環として、職業体験学習にも協力をし、勤労の意味と社会人としての資質を学ばせることを支援した。

15 高校生のボランティア活動の受け入れと、高校の環境美化を支援。

地元の高校生による子どもレストランでのボランティア活動を支援したり、高校のトイレ清掃を受諾して、環境美化に努めた。

16 長野大学、信州佐久短期大学の学生によるボランティア活動を支援。

子どもレストランでのボランティア活動を支援したり、障害福祉サービス事業所での就業前にした就職支援活動をした。

17 神奈川県麻布大学附属高等学校演劇部との文化交流

演劇部の夏の合宿を支援し、演劇の発表の場を提供して障害者と交流をしたり、高校生による環境整美のボランティア活動を受け入れた。

18 NPO法人「子育て応援団ぱれっと」と協働して、子ども支援を実施

子育ての相談支援を円滑に推進するために、施設を提供し、また、子どもレストランの運営を協働で推進した。この5月からは、幼児の一時預かり事業の支援を開始した。

19 県外移住者の支援

北海道出身者の上田市への移住を推進するために、その就労の場を提供し、地域住民との交流を図った。また、福祉空間内の1室で、マッサージ治療を施し、地域住民に憩いの場作りにもなっている。

20 シェルターの受け入れ支援

就労の場を提供し、勤労を通して社会復帰を果たすことに貢献した。その人は、現在、障害者の宿泊施設であるグループホームの副世話人として、障害福祉の増進に貢献できるまでになり、ネパール人の彼も職場復帰ができた。

21 地域文化の伝承活動に協力

狐塚のホタル観賞会の円滑なる実施を図るために、地域住民に駐車場3か所を無料開放して、地域住民にホタル観賞を楽しんでもらった。これにより、地域住民のホタル鑑賞を支援することを通して、地域の文化継承を支援した。

さいがい さいわい

22 「災害りんご」を「幸いりんご」として蘇生

令和元年10月12日、台風19号の被害を被った農家で、落下した商品化にならないりんごを買い上げ、ジャムを製造。災害に出逢ったりんごは、幸いなりんごとなってジャムとして加工され、「フルーツピザ」や、「ジャムパン」として見事に変身できた。変身したりんごは、約1000キログラムにも及んだのである。

台風による甚大な自然災害を、社会福祉法人として、どう受け止めたらいいか。被害に遭った地域や家にボランティア活動として参加する方法も一助であるが、障害福祉サービス事業所として考えたのが、この落下りんごの再利用であった。

利用者と職員、そして地域住民のボランティアの方3名が一緒になって、りんごの皮むきをしてからジャム作りに入った。農家の方が手塩をかけてリンゴ栽培をしていることを思うと、突然の台風で落下したりんごへ思いはいかばかりか。

私たちは、たとえ小さな力でも、社会貢献できる社会福祉法人でありたい。

令和元年度 視察研修の事業報告

この1年、21団体300名の県内外の方々が、まるこ福祉会に来られ、視察研修をされた。「我以外、我が師」(松下幸之助氏の座右の銘)の如く、視察の方々から学んだ事を今後の発展に生かしていきたい。

NO	年、日、 時間	視察者・団体名、人数	視察内容
1	令和元年5月15日(水) 10:00~12:40	上田市鈴子自治会福祉委員 11名	① 説明 ② 施設見学 ③ 買い物 ④ 食事
2	令和元年5月15日(水) 10:00~12:40	上田市本原地区福祉委員 10名	① 説明 ② 施設見学 ③ 買い物 ④ 食事
3	令和元年5月17日(金) 10:30~11:30	上田養護学校高等部2,3年 20名 パンを200円以内購入	① 説明 ② 施設見学 ③ 買い物
4	令和元年6月3日(月) 11:50~14:50	上田市 麦の会 (障害者・児をもつ親の会) 12名	① 食事 ② 買い物 ③ 説明 ④ 施設見学
5	令和元年6月7日(金) 10:00~11:30	埼玉県さいたま市土合地区 民生委員 29名	① 全体説明 ② 施設見学 ③ 買い物
6	令和元年7月1日(月9) 9:30~12:30	松本市笹賀地区 民生委員・児 童委員協議会 21名	① 全体説明 ② 施設見学 ③ 買い物
7	令和元年7月19日(金) 10:30~12:30	松本市民生委・児童委員協議会 32名	① 施設見学 ② 食事 ③ 買い物
8	令和元年10月4日(金) 10:00~12:20	長和町障がい者家族会 10名	① 理事長講話 ② 施設見学 ③ 買い物
9	令和元年10月10日(木) 12:00~15:00	千曲市民生児童委員協議会 32名	① 食事 ② 施設見学 ③ 買い物

10	令和元年10月25日 (金) 10:30~13:00	上田市丸子 西内地区 福祉推進委員 3名	① 施設見学 ② 説明 ③ 食事買い物
11	令和元年10月31日(木) 11:30~12:30	埼玉県 深谷たんぽぽ 所長と前沢さん 2名	① パン、クッキー 購入 27,000円
12	令和元年11月1日(金) 13:30~17:20	宮城県仙台市 ウエル千寿会 田中伸弥理事長以下 6名	① 施設見学 ② 理事長との懇談 ③ 被災地へ1万円の寄付
13	令和元年11月12日(金) 10:30~13:30	新潟県 糸魚川市 社会福祉協議会 ボランティア会員視察研修 18名	① 施設見学 ② 食事 ③ 同時に理事長講話 ④ 買い物
14	令和元年11月21日(木) 10:30~13:40	社会福祉法人 八葉会 障害児通所支援事業所 けいあいフレンズ 視察研修 9名	① 施設見学 ② 食事 ③ 同時に理事長講話 ④ 買い物
15	令和元年11月27日(水) 10:30~13:20	社会福祉法人 八葉会 障害児通所支援事業所 けいあいフレンズ 視察研修 10名	① 施設見学 ② 食事 ③ 同時に理事長講話 ④ 買い物
16	令和元年11月29日(金) 10:20~13:00	松本市庄内地区ボランティアの 会 視察研修 33名	① 全体会 ② 施設見学 ③ 食事 ④ 買い物
17	令和元年12月4日(水) 10:00~13:20	南米農業女性 11名 ・ブラジル ・アルゼンチン ・ポリビア ・パラグアイ	① 施設見学 ② 焼き芋大会 ③ レクダンス ④ 会食会 ⑤ 歓迎会
18	令和2年1月15日(水) 9:00~11:20	長瀬地区 福祉推進委員協議会 中村一紀様、竹花栄造様、矢島様 視察研修 3名	① 施設見学 ② 買い物 ③ 木工改良土

19	令和2年2月19日(水) 11:00~13:00	丸子北中学校 6組 7人 塚田先生以下	① 施設見学 ② 食事 ③ 買い物
20	令和2年3月9日(月) 10:30~11:30	丸子北小学校 横沢泰志校長先生 1人	① 施設見学 ② 懇談
21	令和2年3月31日(火) 11:30~13:30	上田市丸子図書館職員 20名	① 食事 ② 施設見学 ③ 買い物
	海外は、南米のブラジル、アルゼンチン、ボリビア、パラグアイから、日本は、北は、宮城県から埼玉県、新潟県まで。	21団体、 300名が視察者として来所されました。	

三 感想や質問から

1 上田市鈴子自治会福祉委員

- (1) 地域住民との連携は、大切ですが難しいテーマです。時間があればできるというものはありません。地域住民と社会福祉法人まるこ福祉会との関係が円滑でなければできないと思います。
- (2) 今まで、ここまで大きくなったまるこ福祉会ですが、一番大切にされてきたことは何ですか。
- (3) 地域住民と社会福祉法人が結びつくためには、何が必要でしょうか。また、どんな点に気をつけて来られたでしょうか。
- (4) 当時の田中康夫県知事等の激しい反対勢力から、見事、社会福祉法人を立ち上げられたその背景と言うか、源と言うか、エネルギーは何でしょうか。お見事としか言葉がありません。

2 上田市本原地区福祉委員

- (1) ここまで発展させることができた柳澤理事長の力は、どこからきているのでしょうか。使命感と言いますか、それは何でしょうか。まるこ福祉会の理念が基礎となっているのでしょうか。
- (2) とにかく、利用者の皆さんが、大変人懐っこい感じで、心が温まりました。ちょっとお会いしただけでも、「こんにちは」とあいさつを返していただき、うれしかったです。私たち、いろいろな施設に視察研修をして行ってきましたが、まるこ福祉会さんみたいに、明るい事業所はありませんでした。日頃から、どのようなことをなさっているのかお聞きしたいです。

3 上田養護学校高等部2, 3年

- (1) 温かくておいしいパンには、生徒も職員も大喜びでした。障害者がそこに就業しているかと思うと、感慨深いものがあります。
- (2) パンを買うことによって、金銭教育が即できることは、まるこ福祉会に感謝です。学校の近くにあるので、今後もこちらの施設を活用させていただきたいと思いました。

4 上田市 麦の会（障害者・児をもつ親の会）

- (1) 利用者の仕事ぶりが一番、目に留まりました。皆さんが黙々と作業をされる姿は、真剣そのものでした。これほどまで一生懸命作業されることは、仕事に対する責任感を持っているのだと感じました。仕事に喜びをもつことほど美しいことはありません。
- (2) 老人ホーム大樹、障害福祉サービス事業所、福祉空間の3事業所が並列して人的に交流できることは、相乗効果もあり、豊かな生涯を送れる理想の姿ではないかと思います。

5 埼玉県さいたま市土合地区 民生委員

- (1) 質問が、4点出されました。①利用者の明るさと自主性は、どのように醸成してきたのか。②理事長の情熱や施設に描ける構想の根源は何でしょうか。③施設の複合化と並列化の長所と課題は何ですか。④地域との連携は、どのようにして作られ、また、現在はどうのような努力をしていますか。
- (2) 内部循環型運営の長所と今後の方針

6、7 松本市笹賀地区 民生委員・児童委員協議会 21名

- (1) 施設の明るさよりも、利用者の明るさを実感しました。その背後にある職員の明るさが決め手だと理解できました。
- (2) 社会福祉とは、教科書のない社会のなかで、利用者がどのように心豊かに生きられるか、そこから人生の流れをどのように把握されるのか、今まさに自分自身でなく、人のためにという生き方の大切さを教えていただきました。理事長さんが言われた、「利己から利他」の精神の意味とその重要性を教えていただきました。
- (3) 松本では、まるこ福祉会のような複合施設で様々な人々との交流を通して地域福祉を進める、「地域福祉」の拠点がなかなかありません。どのようにすれば、まるこ福祉会のような運営ができるのか勉強したいです。

8 長和町障がい者家族会

- (1) 我が子を、是非通所させたい場所でした。利用者の皆様が、とても温かくて親しみがあって、私たちから声を掛けると、すぐに応えてくれました。心の距離感が一気に縮まりました。
- (2) 長和町にも、このような施設があるとありがたいと実感しました。地域密着型特別養護老人ホームと障害福祉サービス事業所、さらには、サロンやホール、ギャラリー、パン工房と給食センター等、ここまで揃っている社会福祉施設はないと思います。

9 千曲市民生児童委員協議会

- (1) 大変美味しいお食事をいただきました。内部循環のこともお聞きしましたが、ここまでのご苦労はいかばかりかと思うと感心いたしました。

- (2) とてもきれいな施設で、老人ホームは特に、清潔感のある施設でびっくりいたしました。日頃のお手入れの賜物だと思います。
- (3) 工賃の大切さより、充実した仕事と豊かな人間関係の確立を重要視する運営方針に賛同しました。とかく、給与のみを追い求めていくことがあると思います。勿論、それも大切なことですが、人生、お金が全てではありません。物質の豊かさより心の豊かさを求める方が、より生きがいのある人生を送れるものと感じます。
- (4) 社会福祉の重要なことの一つとして、地域の中で障害者がいかに自立して社会性を身に付けていくか、そこから施設として地域福祉の拠点として進展させることができるか、また、人と人をどう結び付け、有益な福祉を展開できるかということを思うと、まるこ福祉会は、その模範を示されているのではと思います。今後も、是非県下を引っ張って欲しいと要望致します。

10 上田市丸子 西内地区 福祉推進委員

- (1) 私たちの住んでいる所とまるこ福祉会を考えると、今までは、近くて遠い存在でした。話は、友人から聞いていましたが、ここまで複合的に運営をされているとは思いませんでした。
- (2) 実際に視察させていただくと、立派な建物というよりも立派な人がいる場所であると感じました。それは、みなさんがとても温かく迎えてくれたからです。そこから急に仲が深まり、距離感もなくなりました、それもごく自然な形であったと思います。

11 埼玉県 深谷たんぼぼ

- (1) 豊かな自然環境のなかで、理事長先生の素晴らしい経営理念のもと、利用者と職員の皆様が、心一つにして尽力されていることが一目瞭然でした。
- (2) 何と言っても、利用者の真剣でいて明るい仕事風景がいつまでも心に残りました。利用者は、様々な課題や困難点をもっていますが、それを個性として大切に捉えようとされている努力が感じられます。これからいづつもの険難の道はあるかと思いますが、理事長先生のもと、皆様のチームワークで見事乗り越えられますことを祈っております。

12 宮城県仙台市 ウエル千寿会

- (1) 障害福祉サービス事業所からスタートをした後、福祉空間施設（サロンあったかい輪、きらりホール、きらり市民ギャラリー、ぐらんまるしえ）を開設し、更には、地域密着型特別養護老人ホーム「大樹」まで開所するなど、これほどまでの理事長のパワーは、どこからくるのでしょうか。
- (2) 地域福祉を進めるために、3つの開所は、特質すべき内容であると思います。普通ではなかなかできないことだと思います。地域住民の声を大切にされ、保護者の声を心のひだまで受け入れる寛大なる精神に感服致します。
- (3) 同一敷地内での3つの事業所が、それぞれの使命を全うされている状況は、利用者にとっても大変ありがたいことだと思います。地域住民との連携もこの中に含まれると思いますが、まさに、地域福祉の灯台の役目を果たしていると実感します。
- (4) 利用者の皆様の心からの明るさを見させていただき、特に、養護学校から実習に来ていた歩さんが実習を終えての帰りの会で、見事なあいさつができたこと、それに、利用者の女性が真心の記念品となる手作りの贈り物（メダルとレイ）を贈呈された場面は、感動さえ覚えました。利用者の心が一体となり、全体が家族となっているようでした。他

ではあまり見られない風景で、大変勉強になりました。

13 新潟県 糸魚川市社会福祉協議会 ボランティア会員視察研修

- (1) 利用者さんが表舞台で、明るく行動的に仕事や生活をしていることが随所で見られ、このような社会福祉法人の運営方針に感動をしました。職員がどこにいるのかと思うくらいでしたが、ここまで利用者の活躍の舞台があることは、実は、その裏には職員のみならずの努力があるのだと感じました。
- (2) ここまで、地域密着型特別養護老人ホームと障害福祉サービス事業所、さらには、ホールやサロン、ギャラリーといった福祉空間の3つが並列に役目と使命を担っていることには、大変驚きました。すごいパワーがあるのだと思い、理事長様のお力のすごさには感服をしました。

14 社会福祉法人 八葉会 障害児通所支援事業所 けいあいフレンズ

- (1) とにかく、柳澤理事長の情熱と信念には圧倒されました。すごい一言です。短い期間の中で、よくそここまで大きな施設と福祉空間を立ち上げ、盛況にしたか、講話をお聞きする中でよく理解ができました。
- (2) それにしても、簡単にはできません。大勢の協力者をここまで集められたことにも驚嘆です。決してお一人だけでの力ではないと言っておりましたが、その通りだと思いますが、やはり最後は一人の力だと思います。
- (3) 1時間40分にも及ぶ理事長の講話には、時間を忘れて聞きほれました。あれだけのことを話される背景にあるものをよく考えておりました。それは、理事長さんの特別な個性というか神通力というか、何か特別なものを感じました。研修に来てよかったです。
- (4) 利用者の皆さんが大変明るく人なつっこく感じました。利用者一人ひとりが、たくさんの個性をもって楽しく仕事や生活をしている様子が手に取るようにわかりました。利用者さんが利用者さんに呼びかけをして事業所全体を、利用者さんの声かけで運営されていることに深い共鳴を感じました。素晴らしいことですね。居場所があり、責任感も持ち、使命感を持って仕事をされていることが良くわかりました。何か、自信をもって仕事をしている利用者の姿から、ここにいる利用者さんの幸せな財宝を見た感じでした。

15 社会福祉法人 八葉会 障害児通所支援事業所 けいあいフレンズ

- (1) 理事長の講話から、まるこ福祉会の沿革を伺いましたが、困難だらけのなかを情熱をもって、また障害者の保護者からの熱い願いを100%達成しようとした使命感には、心の底から感服いたしました。ありがとうございました。
- (2) これほどまで、障害者のために尽力されている方は、今まで見たり聞いたりしたことがなかったので驚きの一語です。普通では考えられない事業を周到な計画と着実な実践力でもって現在の施設を堅持されましたことを教えていただき、本当にすごいことだと驚きをもって感じました。
- (3) 利用者から自ら自己紹介をする姿が見られました。誕生日を聞くと、「11月27日の1時30分」と時間まで教えていただき、うれしかったです。時間まで言われたことは初めてで、心の美しさを感じました。

16 松本市庄内地区ボランティアの会 視察研修33名

- (1) 障害のある人、介護が必要な人、職員が、地域のボランティアの皆さんとお互いに思い

やりの心をもって、運営に関わっている総合施設として、交流をしたり、関わっていることに感動をし、とても参考になりました。

- (2) 垣根のない社会福祉施設であり、地域の方々とも融合しあっていることも感心をしました。
- (3) 何といたっても利用者さんがとても明るく、職員の皆様の心がけが良く理解できました。理想の施設であり、素晴らしい総合施設です。県下に「きらり」、「まるこ福祉会」のみとの由、各市にも設置してもらいたいと思う。
- (4) 各施設が孤立しないで連携しつつ、相互に協力しながら運営できていることが素晴らしいと思います。
- (5) ボランティアの方々楽しくやっていて、とても良かった。今まで数数の施設で研修をしてきたけど、このような施設は今までありませんでした。

17 南米農業女性

- (1) 南米は、ブラジル・アルゼンチン・ボリビア・パラグアイの4か国の農業女性の皆様であった9名と、信州せいしゅん村の小林村長さんと宮阪さんであった。
- (2) たった20分足らずの歓迎会であったが、嵐の「ふるさと」の歌を利用者と一緒に歌ったが、南米の大勢の方々涙ぐんで歌っていたのが印象的であった。ハグして歓送をしたが、いつまでも感動で泣いている利用者が多かった。
- (3) 施設職員からの説明に対して、南米農業女性の皆さんは、一つひとつメモを熱心にとる姿が印象的であった。

18 社会福祉法人 八葉会 障害児通所支援事業所 けいあいフレンズ

- (1) 施設全体が明るく、風通しの良い雰囲気、空間の穏やかさを感じる心地良かった。
- (2) 利用者の方々の生き生きとした笑顔が素晴らしい。自主性に動いて、お互いに認め合い求め合い、生きがいを感じて働いている姿があった。
- (3) 地域（地元の方々）との繋がりの強さ、ボランティアさんの活躍は素晴らしい。
- (4) 職員間の連携体制や目標が共有されているので、内部循環が出来上がっている。
- (5) 利用者の言葉の掲示、作品展示がされている。いつもアンテナを高く持ち、利用者さんの良さを拾うことが大切だと感じた。
- (6) 誰かに頼るのではなく、先ずは自分がやる気持ちの方が大事。実行に移せる力、継続する力、発展させる力、理事長のお話からパワーを感じた。
- (7) 「地域福祉、社会貢献活動20事例」のなかで、まねのできるものを実践したい。 ※上記の(1)～(7)は、全て、けいあいフレンズの復命書をいただき、その内容を記載したものです。

19 長瀬地区福祉推進委員協議会

- (1) 地元にながら、こんなにすばらしい施設や福祉空間があるとは知りませんでした。これからは、皆さんに伝えていきたいと思います。
- (2) 地域と福祉が共生する社会が、今こそ求められている時代はないと実感しておりますが、まるこ福祉会では、それにチャレンジしているのだと思い敬服しております。

20 丸子北中学校 6組 生徒の感想 (別項参照)

21 丸子北小学校 横沢泰志校長先生

- (1) 今まで、近くにいながらどのような仕事をされ、また、様々な活動をされていたのか理解しておらず大変失礼でしたが、本日、実際にここに来させていただき、利用者の皆様も、地域のボランティア活動の方々も、意欲的に仕事や活動をされていて、すばらしいと感じました。
- (2) 地域福祉の拠点として、障害者や高齢者の生きがいとなる場所としての役割が大だと思いました。
- (3) 本日は、子ども支援レストランを開催されており、うちの学校の子ども2人がお世話になっており、感謝申し上げます。

令和元年度マスコミ取材による、まるこ福祉会の事業紹介

1 テレビ放映で紹介された、まるこ福祉会の事業17回

- ・NHK；5回
 - ・SBC信越放送；1回
 - ・sbn長野朝日放送；1回
 - ・丸子テレビ；10回
- 計17回取材を受けた

- (1) 令和元年6月19日 NHK 放送 「イブニング信州」
ザクザク信州 『子どもレストラン』
- (2) 令和2年3月6日 NHK 放送 「イブニング信州」
休業中 『子ども支援レストラン』
- (3) 令和2年3月11日 SBC信越放送 ニュースワイド
休業中 『子ども支援レストラン』
- (4) 令和2年3月11日 abn長野朝日放送 abnステーション
休業中 『子ども支援レストラン』
- (5) 令和2年4月1日 NHK 放送 「イブニング信州」
新型コロナウイルス対策 社会福祉法人では
- (6) 令和2年5月13日 NHK 放送 「イブニング信州」
新型コロナウイルス対策 自宅でできる手芸、折り紙紹介
- (7) 令和2年5月14日 NHK 放送「おはよう日本」朝7：38～
新型コロナウイルス対策 自宅でできる手芸、折り紙紹介
- (8) 上記の他に、地元の丸子テレビでは、まるこ福祉会が開催する行事等を随時、取材し放映をしてくれた。 10回

2 ラジオ番組で紹介された、まるこ福祉会

- (1) 令和元年6月22日 SBC信越放送 「上田ぶらり散歩」
カフェレストラン ぐらんまるしえ
- (2) 令和2年3月6日 SBC信越放送 「朝のモーニングワイド」

3 新聞記事で見る、まるこ福祉会の歴史

2019（平成31）年2月～2020（令和2）年3月
～まるこ福祉会の事業や行事を新聞記事で紹介、延べ23紙～

- (1) 平成31年2月5日 東信ジャーナル

- 「南米の日系農業女性と交流会」 ～上田のまるこ福祉会きらりで、利用者と餅つき～
- (2) 平成31年3月27日 東信ジャーナル
「バンド演奏や国際交流を楽しむ」 ～まるこ福祉会 フランス人ら餅つき体験も～
- (3) 平成31年4月10日 信濃毎日新聞
「福祉法人にプリンター寄贈」 ～エプソン労組 上田で贈呈式～
- (4) 平成31年4月20日 週刊うえだ
「農業体験のフランス人一行 まるこ福祉会で国際交流」
- (5) 令和元年5月5日 信州民報
「映画 兄消える 上演を記念して」
主役の柳澤慎一さんが、まるこ福祉会の柳澤理事長を紹介
- (6) 令和元年5月14日 信州民報
「出会いは、一生の宝」 まるこ福祉会理事長 柳澤 正敏
- (7) 令和元年5月17日 信濃毎日新聞
「信州の四季 写真で捉えた」 東御市の開業医が、まるこ福祉会のきらり市民ギャラリーで、写真展
- (8) 令和元年6月5日 信濃毎日新聞
「脳活性化ゲーム 開講1周年を祝う」～住民や福祉施設利用者ら～
- (9) 令和元年6月5日 信州民報
「まるこ福祉会きらりホールで、交流」 ～脳活性化開講1周年～
- (10) 令和元年7月3日 信州民報
「花風里 開所20周年」 ～名称は、シャープの門に決定～
- (11) 令和元年7月4日 東信ジャーナル
「シャープの門と決定」 ～花風里20周年記念で制作～
- (12) 令和元年7月14日 信州民報
「まるこ福祉会市民ギャラリー酒井康弘さん タペストリー写真展」
- (13) 令和元年10月25日 東信ジャーナル
「まるこ福祉会 福祉空間施設3周年記念 音楽の祭典」
～利用者と職員が歌や踊り披露～
- (14) 令和2年1月22日 東信ジャーナル
「遠藤一己さん チャリティーコンサート」
～まるこ福祉会子ども食堂に収益金全額寄付～
- (15) 令和2年1月24日 信州民報
「まるこ福祉会チャリティーコンサート」
～音楽で子どもたちに元気を届けたい～
- (16) 令和2年2月26日 読売新聞
「子どもレストラン 様々な年代 つながる場」

- (17) 令和2年3月4日 読売新聞
「休校児童 学校で受け入れ 上田市は、福祉施設で」
- (18) 令和2年3月4日 信濃毎日新聞
「休校の子に 居場所を 上田市 社会福祉法人がレストラン」
- (19) 令和2年3月6日 信州民報
「まるこ福祉会 休校中子ども支援レストラン開設」
- (20) 令和2年3月7日 東信ジャーナル
「上田のまるこ福祉会 休校中の子どもたちに居場所」
～19日まで「支援レストラン」～
- (21) 令和2年3月12日 読売新聞
「教訓つなぐ 避難訓練 まるこ福祉会」
- (22) 令和2年3月21日 週刊うえだ
「新型コロナウイルス感染予防の全国一斉休校を受けて
子ども支援レストラン まるこ福祉会が開設」
- (23) 令和2年4月7日 信州民報
「まるこ福祉会 きらり市民ギャラリー 美崎大洋さんの個展」

令和元年度 利用者の日々の成長報告

この1年、まるこ福祉会の利用者は、それぞれの職場において、仕事と生活面において、成長した姿が随所にみられた。ここでは、その一端を紹介する。

元来、障害福祉サービス事業所において、利用者は、就労支援B型と生活介護の両面において職員からの支援を受けながら、就労の技術向上と社会的自立を目指して通所をしている。

社会福祉法の第3条には、福祉サービスの基本的な理念が明記されている。そこには、「福祉サービスは、個人の尊厳の保持を旨とし、その内容は福祉サービスの利用者が心身ともに健やかに育成され、又は、その有する能力に応じ自立した日常生活を育むことができるように支援するものとして、良質かつ適切なものでなければならない」と定められている。

私たち、まるこ福祉会では、この「心身ともに健やかに育成」と「能力に応じた自立した日常生活を育む」を堅持しながら、利用者が、21世紀の社会で、「明るく、楽しく、前向きに」（我が法人のA T M）に生きていく力を、まるこ福祉会の日常生活の職場で磨き合うことを大切に考えている。

- (1) 基本は、あいさつを重点にしている。「あいさつは、心に太陽を昇らせる、だれもができる最善の行為」である。利用者の朝礼や帰りの会、また、就業中であっても、いつも感謝の心を忘れないことを日々確認し合ってきた。「あいさつの指針」にある、①明るく、②いつでも、③先に、④続けて行うあいさつを、今後も実践していきたい。
- (2) その上で、利用者の心の成長や長所を発見できる、**「感動のアンテナをはりめぐらす」職員**として成長することである。日常生活で、利用者が発した言動を見逃さず、長所は、全財産としてみんなで共有しあうことである。そこから、**「響き合う心」**が醸成されると思う。その具体的な姿を以下に示して「善業報告」としたい。

① 「ちょっと、しゃがんでみたら」

令和元年9月9日、月曜日の朝9時18分、通所してきたばかりの、令子さんが、食堂で、しゃがんで、何かをじっとみていました。

すると、「ごみが椅子の下におちているね」といって、早速、掃除箱から、ほうきを取り出して、ごみをとる掃除をしてくれたのでした。

その周辺には、すでに、みずきさんもほうきをもって、掃除をはじめたのでした。いすの下を履く人に続いて、知子さんと美奈子さんが、いすを整頓してくれていたのです。

ちょっとしたことですが、ごみがおちているねと気づいて、すぐに、掃除をする行動力がまず、すばらしいことです。世間では、よく、見ているだけで、何もしないことが多い中、感心しました。

その次に、令子さんに続いて、美奈子さん、知子さんの協力がすばらしいです。他人事でなく、協力をする心が素晴らしいです。

「これで、気持ちよく、食事ができます」と言った、令子さんの真心に感謝です。この気づいたことと、すぐ実行したこと、それに協力をした人、みんな、きらりの宝です。ありがとうございました。

気付いたことを、すぐに実行に移せる。
そして、自分も何かできることがないかと協力できること。その行動の後に残ったものは、「気持ちのいい心」でした。

② 「壁の写真が落ちています」

9時22分に周也君が、職員に伝えてきたこと、それが、「壁の写真が落ちています」でした。

その職員が、現地に行くと、理事長と雪村いづみさんが握手をしている写真が、模造紙から落ちかけていたのでした。

周也君は、落ちていた写真を何とかしようと試みていたのですが、なかなか貼れなかったのです。

それに気づいた周也君は、職員に教えてくれたのでした。

いつも、事業所の部屋の全体を見えています。きれいな壁にきれいな写真が飾られていることをいつも望んでいるのです。素晴らしいです。

③ 「黙って掃除をしていた司君」(同年9月9日)

朝8時45分、事業所内で、1人黙々と掃除をしていた利用者がいました。

清掃用工具箱からそっとほうきを取り出し、何気ないしぐさで机の下を掃除したのでした。

5分ほどすると、掃除をする場所は、食堂に移り始めました。椅子を移動してから、ごみをきれいに履き始めたのでした。

この間10分は、なんとさわやかな時間となりました。だれかに言われてから掃除をするのではなく、自ら進んでの掃除でした。

みんなのために、そして、みんなが気持ちよく仕事ができるようにと考えて、掃除をした司君に拍手を送りたいと思います。

(3) 「悪の傍観者から、善の勇者へ」

ある利用者から職員に一通の手紙が届いた。そこには、こんなことが書かれていた。
『帰りの会が終わって、玄関に行くと、K子さんが怒った顔をして何かどなっていました。「H子さん、さっさと早く履き替えてくれない。そのせいで、こんなに混んでいるんだから。」私は、その声がしたところを見ると、K子さんが、Hさんにそう言っていたのです。Hさんは、私と同じで足が不自由だったので、他の人と同じようにすぐに靴を履けないのです。私は、思い切って、こう言いました。「K子さん、Hさんになんてことを言うの。Hさんは、足が悪くても一生懸命、靴を履き替えているの。その言い方はないでし

よ。」と言ったら、K子さんは、だまりました。その周りにいた人たちもびっくりしてだまっていました。そして、私は、急に大きな声を出してごめんなさい。と言いました。』

あのナポレオンもアインシュタインも、少年時代は、ひどいいじめにあっていた。ナポレオンは、出身地のコルシカなまりによる言葉と背の低さの容姿でいじめられ、アインシュタインは、苦手な教科があっけいじめられた。

様々な障害は、時には、いじめや差別の対象になる場合があるが、決して許すことのできない行為として、だれかが見たら、傍観するのではなく、正面から悪を見抜きみんなで追放できる職場や人間関係づくりを日々、実践していくことを、この利用者さんから、学んだのである。

具体的には、次の点があげられる。

- ① お友だちの言語や態度でいけないと思った時、「いけないよ」と勇気をもって注意できたことである。この勇気に、心から拍手を送りたい。普通は、このようなことは、なかなかできないのが普通である。

逆に、勇気をもって注意してあげたことで、いじめに遭うケースが多いのです。勇気が、相手の心に通じた時、相手の人も、心が洗われるのです。

- ② やはり、同じ足の不自由なH子さんの立場になって発言できたことです。これこそ、思いやりの心であります。それは、相手の立場になって考えたり、行動できることが素晴らしいことだと思います。
- ③ その後、いけないことをやってしまった本人のK子さんは、反省をして帰りの会で仲間の前で謝ったのです。確かに、いけないことを言ったのは事実です。しかし、それを素直に反省し、自分から迷惑をかけたことに気づき、あやまることができたことも、素晴らしいことだと思います。

こうして、支援員が利用者を注意する前に、利用者同士が、互いに注意したり、認めたりすることが、いかに勇気がいり素晴らしいことか、今回、利用者さんから学んだのである。

これも、心の成長の記録である。小さなことではあるが、その小さいいじめとなる芽をつむことは、極めて重要なことである。互いに批正し合える環境ができると、そこから、「みんな『違う』ってすばらしい」という心を持てるようになり、利用者のだれもが「開かれた心」から「強い心」に成長できると思う。

(4) 「勇気ある発言が、人々の心に光を灯す」

様々な環境で育った我々は、人間性も多種多様である。しかし、どうせ、縁があって、まるこ福祉会で仕事をし生活をするなら、楽しく仲よく精一杯生きていきたいと誰もが考える。

しかし、現実には、たった一言で心を傷つけたり、たった一言で心を温めてもらうように、瞬間瞬間その人の心は変容し、落ち込んだり上機嫌になったりする。

そのような中であって、共に励まし、励まされながら、心に絆を結びあえるような職場をつくっていききたい。ここでは、まるこ福祉会ぎらりの改築工事で、うるさかった音に神経をとがらせていた利用者の心を、あっという間に善の方向に導いた利用者の大きな心の成長を紹介する。

「工事の音、うるさいね」

障害福祉サービス事業所、きらりの改築工事は、平成29年5月から2か月かけて始まったのでした。

コンクリートを打ち砕く音は、同じフロアで仕事をしている利用者や職員にとっては、まさに、うるさい音、騒音として受け止めていました。

その音に耐え切れず、ある女性利用者が叫びました。「工事の音、うるさいね」その時でした。ある女性利用者が、こう叫んだのでした。

「私は、うるさいとは思わないよ。だって、あとで、きれいなきらりになるんだから」と、更に続けてこう言いました。

「仕事をしている人は、きれいな建物を作るために、一生懸命、仕事をしている。

一番、このうるさい音を、一番近くの耳で聞いている人は、その仕事をしている人だと思う。」と。

『心がきれいだと、うるさい音も、音楽になる』ことを、みづきさんは、私たちに教えてくれたのでした。

◎ その後、利用者や職員の朝礼でお伝えをしました。その後は、「うるさい」という口癖は、ほとんどなくなったのでした。

◎ さらに、この実話は、工事現場の社員朝礼でも、職場の責任者から現場の社員全員に伝えられたのでした。その責任者は、こう語っていました。

「今まで、いくつもの現場工事を担当してきましたが、このような言葉を言われたのは、人生、初めてのことです。どんなに辛い仕事でも喜んでできるようになりました。」と。

みづきさんの感性のすばらしさに脱帽です。そして、相手の立場に立って考えられる、この点も感動です。

この一年、利用者にとっては、仕事や生活を通して様々な出会いや経験をした。成育歴や性格の違いがあっても、障害は個性ととらえ、何があってもみんなて話し合い、解決できる風通しの良い職場をつくることは、利用者だけでなく、私たち職員にとっても重要なことである。

「認め合う心」と「高め合う心」、そして、「寄せ合う心」、この三つの心を大切にして、利用者と共に成長できる職員集団を目指していきたい。その姿を見せることが、利用者の心の成長にもつながっていくものと思われる。

令和元年度 施設別 事業報告

1、施設別 事業報告

1、就労継続支援B型事業・生活介護事業

とんぼハウス 就労継続支援B型事業 令和元年度年間利用者実績
生活介護事業 利用者回転率 75%
上田市生田5071番地1

きらり 就労継続支援B型事業 令和元年度年間利用者実績
生活介護事業 利用者回転率 99.9%
上田市長瀬2885番地3

1-1 利用定員・職員構成

事業種別		とんぼハウス		きらり	
		就労継続支援B型	生活介護	就労継続支援B型	生活介護
利用者定員		20人	20人	30人	10人
職員	管理者	1人	1人	1人	1人
	サービス管理責任者	1人	1人	1人	1人
	職業指導員 生活支援員	5人	7人	7人	4人
	看護師		1人		1人
	嘱託医		1人		1人

1-2 主な活動内容

	とんぼハウス	きらり
自主活動		
木工製品の製作と販売	○	
資材リサイクル作業アルミ缶回収	○	○
施設外就労	○	○
手芸品の製造と販売	○	○
農作物・果樹の栽培・収穫と販売		○
パン・クッキーの製造と販売		○
りんごジャムの製造とフルーツピザの販売		○
大樹の清掃		○
土壌改良とブルーベリーの栽培	○	
受託作業		
箱折り		○
梱包用シートの再利用等の簡易作業	○	○
カレンダーの袋入れ	○	○
石鹸の袋詰めと販売	○	
手芸品の製造	○	○
農作物・果樹の栽培と収穫	○	○
チラシ折込と封入など	○	
上田市丸子物産館「花風里」の受託作業		○
ジャム瓶のシール貼り		○
プラスチック部品の梱包作業	○	○
リサイクル品の回収と分別	○	○
リサイクル品の解体と分別	○	○
丸子修学館のトイレ清掃		○
障害者優先調達推進法関係	○	
木工製品の製造と販売	○	
ベルパークの花壇散水作業	○	

趣味や特技を活かした活動		
ハワイアンダンス	○	○
カラオケ	○	○
手話ダンス	○	○
読書	○	○
フラワーアレンジメント	○	○
その他	○	○

2 総合厨房（ぐらんまるしえ）

① 現在の職員体制

正規職員 6名 臨時・パート職員 4名

② 来客数 18,897名/年

売上げ（パン・ランチ・喫茶） 月平均 1,129,213円
 //（給食） // 1,459,950円

（ア）パン工房

- ・パン販売の他、ランチを始めました。
- ・予約にてパーティー等を承りました。
- ・東日本大震災復興支援コーナーを設けました。
- ・健康食品コーナーを設けました。
- ・通所利用者数 1日平均 5.6人

（イ）厨房

現在の給食数

- ・朝食 特養 大樹の利用者 29食
- ・昼食 特養 大樹の利用者 支援施設きらりの利用者 約 100食
- 両施設の職員
- ・夕食 特養 大樹の利用者 29食

平成29年2月1日より、きりり利用者、大樹利用者及び職員の給食を開始し、3周年を迎えました。

農業班が栽培したお米、葱、じゃがいも等、手作りの味噌を使用し調理しています。

- ・パーティー等の行事での食事提供
- ・利用者数（就B） 1名

3 グループホーム

- ① 障がい者共同生活支援 ホームとんぼ 第一、第二、第三
- ・年間の利用率は、95%以上で推移しました。
 - ・世話人の確保もできています。
 - ・自力通所できる方は、バスを使って通所しています。(8名)
 - ・緊急時のシェルター機能を活用

4 上田市物産館 花風里

- ① 現在の職員体制
- 正規職員 1名 パート職員 2名
- ② 事業
- ・クッキーの製造(販売・注文)
 - ・すいせん祭り、ラベンダー祭り等のイベント
 - ・予約ランチの提供
 - ・通所利用者数 1日平均3人
 - ・来客数 6,689名/年
 - ・売り上げ 月平均 481,317円

5 地域密着型特別養護老人ホーム 大樹

- ① 令和元年度年間稼働率(長期入所)98% (短期入所)27.2%
- 施設内での看取り 3名(本人の意向をくみ取り、嘱託医、家族、職員と連携し看取り対応ができました。)
- 特養退所 2名(医療継続が必要な状態となった為)
- 利用者全員の胸部レントゲン撮影実施により健康管理に努めました。
- ② 現在の総職員数 25名(兼務あり)

	常勤	非常勤	計
施設長	1人		1人
医師(嘱託)		1人	1人
看護師	2人		2人
介護職員	15人	5人	20人
管理栄養士	1人		1人
生活相談員	1人		1人
介護支援専門員	1人		1人
機能訓練指導員	1人		1人
事務職員	1人		1人

新規職員の採用により研修を充実させ、人材育成に取り組み意識改革を図りました。

全体学習会を定期的を実施し、職員一人ひとりが力をつけどんな場面にも対応できるよう努めてきました。

各種委員会活動を充実させてきました。

- ③ 加算状況・ユニット型介護費、看護体制加算、栄養マネジメント加算、サービス提供体制強化加算（Ⅱ）処遇改善加算（Ⅰ）特定処遇改善加算（Ⅱ）新たな加算を二つ加えることができました。

定期的にケアプランの見直しを行い、本人・家人との担当者会議を開催し共有を図りました。

利用者満足度アンケートを実施しサービスの向上に努めてきました。

季節毎の外出・誕生日における外出・外食などを行い気分転換が図れました。

施設内行事やきらりホールでのイベントに参加していただき、楽しみの時間をつくりました。

ユニット毎、利用者の希望に沿った「おやつ作り」を実施し作る楽しみ、食べる楽しみを味わいました。

- ④ 短期入所（従来型）

平成 30 年 7 月より短期入所を再開し利用者が少しずつ増えてきています。リピーターとして継続利用いただいています。